

1 はじめに

定時制課程で働きながら学ぶ生徒を支援する団体として、PTA、ETAが挙げられる。本校にはPTAと「定時制育成会」（以下「育成会」）の2団体がある。

本稿では、育成会の歩みを振り返り、現状と課題について報告したい。

2. 育成会のあらまし

(1)「ETA」から「育成会」へ

育成会は、従来の「ETA」が平成16年に休会した後、約3年の準備期間を経て平成19年に発足した。事業主が主体として定時制生徒の就労及び学校生活を支援する団体というETAのあり方から脱し、広く地域の賛同者を募り、ETAの理念を継承しつつ発展させ、働きながら学ぶ定時制生徒の学校生活を支えるというものだった。

育成会は発足当初31名でスタートした。広報や会員の口コミにより徐々に賛同者を増やし、令和2年5月現在50名が在籍する。

(下表)。構成員は、従来の事業主・教職員のほか、PTA役員、同窓会員、議会議員などである。本校が平成30年より新校舎が完成し、育成会への関心が高まったようである。

| 年度 | 会員・賛同人数 |
|------------|---------|
| H 1 9 | 31 |
| H 2 0 | 31 |
| H 2 1 | 33 |
| H 2 2 | 32 |
| H 2 3 | 32 |
| H 2 4 | 33 |
| H 2 5 | 35 |
| H 2 6 | 34 |
| H 2 7 | 36 |
| H 2 8 | 38 |
| H 2 9 | 38 |
| H 3 0 | 40 |
| H 3 1 (R元) | 43 |
| R 2 | 50 |

(2) 本校教育課程での位置づけ

本校の教育課程における、育成会に関する記述は下記の通りである。育成会はPTAと並んで地域の教育の担い手の一つに位置づけられている。

(中略) PTAや定時制育成会等、地域や外部の教育力を生かし、就労意欲の向上及び進路指導の充実を図る。
(「道徳教育全体計画」より)

3. 育成会の事業について

- ① 就労や進路対策への協力
- ② 進路講話、教育講演会の実施
- ③ 同一職場での就労を継続した生徒の表彰
- ④ 職場での生徒の様子情報の共有
- ⑤ その他本会の目的達成に必要な事業

(規約 第3条)

生徒は年度当初に5割程度が働いているが、新入生が5月の行事「ハローワーク説明会」の後に徐々にアルバイトに就くようになり、年度末には就業率が7割を超える。上記①④については、賛同企業での就労を希望する生徒には個別に相談に応じ、職場体験(インターンシップ)を経て、スムーズに就業できるようにしている。就業後も担任が生徒と面談したり職場と連絡を取ったりしながら、職場での生徒の様子把握と、学校での指導に生かしている。

②③⑤については次章で述べる。

4. 事業内容と実態について

| | |
|-----|------------|
| 5月 | 第1回役員会・総会 |
| 6月 | 進路講話 |
| 8月 | 4学年就職模擬面接会 |
| 11月 | 教育講演会 |

育成会は上記事業のほか、部活動、卒業生による講話（7月）、入学生予備登校（3月）などにおいて、必要物品の提供や講師謝礼などの物的、金銭的支援を行っている。

また、某ラジオ局の番組では役員がディスクジョッキーを務めており、年に数回定時制の生徒が出演して学校生活についての報告や本校のPR活動を行っている。



○進路講話・教育講演会（6月・11月）

当初は会員である事業主に講師を依頼して話をしてもらうことが多かったが、近年は外部より講師を招き、大学教授やアナウンサー、シンガーソングライターとバラエティに富んでいる。講話の内容にも趣向工夫を凝らし、パワーポイントの提示で視覚支援を行ったり、クイズや実演も交えたりするなど、生徒が参加しやすいものになり、生徒・保護者や会員などの聴講者にも好評だった。



（講演会の実演・実験風景）

○就職模擬面接会

9月の就職試験解禁前に4年生を対象と

して、フジフーズ(株)仙台工場の協力を得て実施している。就職試験の直前ということもあり、4年生は本番さながらの真剣さで面接に臨んでおり、就職内定にもつなげている。



○4年間同一職場表彰

近年は平成29年度が4名、平成30年が2名、令和元年度0名と減少している。会社の閉店による解雇される生徒もおり、アルバイトが長期に渡って就業することの困難なことがここに表れている。



4. 育成会の課題

（1）会員の高齢化

発足後13年経つ現在も年旧ETAからの会員・役員が中心メンバーであり、高齢化が進んでいる。それに伴い、病気・廃業による退会者が少しずつ増えている。若い世代の会員への引き継ぎが急務である。

（2）行事への参加者が少ない

主催行事への参加者は教職員を含めても半数に満たない。事業主やPTA役員等のスケジュール調整上致し方ないところもあるが、広報を見直すとともに、魅力的な行事を企画・運営していく必要性も痛感している。

（3）会員と生徒が交流する機会を少ない

役員会では常時話題に上る事項である。学校行事の編成の問題も絡んでくるが、共に活動ができるような行事を企画し学校に提案していく必要がある。

6. おわりに

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で総会と進路講話が中止となるなど、今後の主催行事への影響が懸念される。

育成会初代会長である今野慶一氏は、育成会発足当時、「育成会がこれからも生徒の側に立ち、一緒に歩いて行くのも我々の役目である」と述べている。(※)

本校定時制は現在創立 72 年。令和 3 年度には新体育館が完成予定であり、2023 年度（令和 5 年度）には学校創立 100 周年を迎える。育成会には、今後も働きながら学ぶ生徒と共に歩み、地域の教育力を発揮していくことが求められている。

(※) 参考文献① 第 4 章 78 ページ

参考文献

①宮城県名取高等学校記念誌編纂委員会『創立 90 周年記念誌 朝日 この十年の歩み 平成 15 年から平成 24 年まで』

(宮城県名取高等学校 90 周年記念事業実行委員会 2014 年)

②宮城県名取高等学校記念誌編纂委員会『名取高校 80 年史 水脈』(宮城県名取高等学校 80 周年記念事業実行委員会 1994)

③宮城県名取高等学校校史編纂委員会『名取高校六十年史 年輪』(宮城県名取高等学校 1983 年 10 月)

上記の他、本校教諭であった故高島邦俊氏がまとめた、本会発足当時の膨大な議事録を参照させていただいた。氏の早すぎる逝去を惜しみつつ、謹んで謝意を表します。